

2021年12月3日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

1. 概 要

歩行名称	北海道ブロック (1)
歩行区間	スタート地点：JR函館駅 ゴール地点：乙部町役場
実施期間	2021年9月13日 (月)～9月17日 (金)
全歩行距離	176 km

2. メンバー表

No	役割・分担	氏 名	年齢	歩行日数	備 考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	64	5 日	ワングルOB24 期
2	運転・記録	森 正昭	80	5 日	ワングルOB 9 期
3	記録・会計	蔵田 道子	73	5 日	ワングルOB14 期
4	運転・記録	鈴木 孝雄	73	5 日	坂本徹の中学恩師
5	運転・記録	今井 伸二	64	5 日	坂本徹の中学同級生
6	記録	田口 馨	64	5 日	坂本徹の中学同級生
7	記録	味沢 俊治	65	5 日	坂本徹の大学1 期先輩

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	9/13	午前居住地から函館に移動、午後函館市内散策	—	メンバー表記載の7 人
2	9/14	函館駅～知内町役場	52.2 Km	同 上
3	9/15	知内町役場～道の駅北前船松前	46.0 Km	同 上
4	9/16	道の駅北前船松前～道の駅上ノ国もんじゅ	52.9 km	同 上
5	9/17	道の駅上ノ国もんじゅ～乙部町役場	25.3 km	同 上
合 計			176.4 km	

4. 参加費・費用

(1) 参加者延べ日数 5 日×7 人=35 人日

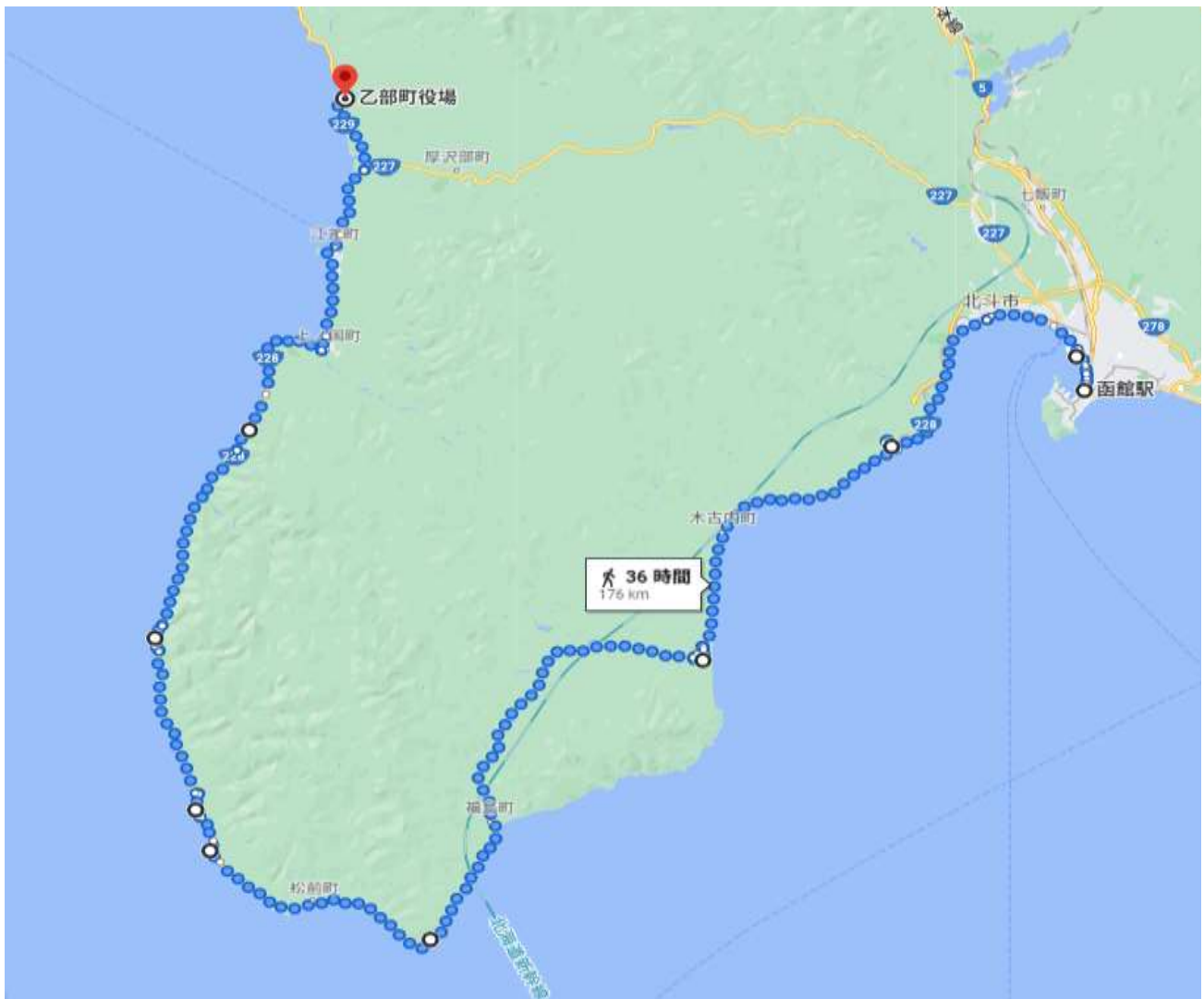
歩く会会費 (参加費) 合計 3,500 円

(2) 一人当たりの費用

- ① レンタカー 7,700 円 (車借用と保険 6,200 円、ガソリン代 1,500 円)
- ② 宿泊料 1 泊目: コンフォートホテル函館 各自手配 (飛行機と宿泊 1 泊分のパック商品に含む)
2 泊目: ユートピア和楽園 知内温泉旅館 (1 泊 2 食付き) 6,900 円
3 泊目: 温泉旅館矢野 (1 泊 2 食付き) 8,550 円
4 泊目: ホテル寺子屋 (1 泊朝食付き) 7,700 円
- ③ 飲食代 1 日目 (9/13) の昼食代 1,500 円～2,000 円
1 日目 (9/13) の夕食代 4,000 円～4,700 円
4 日目 (9/16) の夕食代 2,900 円～3,700 円
5 日目 (9/17) の昼食代 1,000 円～1,500 円
旅館での飲物代 2,000 円～4,500 円
飲食代等の合計 11,400 円～16,400 円
- ④ 観光施設入館料 1,300 円
- ⑤ 交通費 (羽田と函館空港往復チケットとホテル 1 泊付きパック商品など各自調達) 3 万円程度
- ①～⑤ 総 計 73,250 円～78,250 円程度 (羽田空港までの交通費を除く)

5. 歩き方

(1) 歩行ルート（次の地図のとおり）



(2) 歩行の効率化のためレンタカー（ステップワゴン8人乗り）を併用

(3) 歩行の班編成：3班（各班2～3名）で分担・リレー方式で歩行

メンバーの体力を勘案して、チーター班（歩行距離25km程度）とウサギ班（歩行距離15km程度）とカメ班（歩行距離10km程度）に区分して、メンバーの希望により歩行前日の夕食時ミーティングにて決定した。

	9月14日 (52.2km)		9月15日 (46.0km)		9月16日 (52.9km)		9月17日 (25.3km)	
	距離	メンバー	距離	メンバー	距離	メンバー	距離	メンバー
1班 (チーター班)	25.5km	○坂本 徹 鈴木孝雄 今井伸二	25.1km	○坂本 徹 鈴木孝雄 味沢俊治	26.0km	○鈴木孝雄 今井伸二 味沢俊治	10.9km	○鈴木孝雄 味沢俊治
2班 (ウサギ班)	16.8km	○森 正昭 味沢俊治	11.3km	○森 正昭 田口 馨	17.2km	○森 正昭 田口 馨	9.7km	○坂本 徹 田口 馨
3班 (カメ班)	9.9km	○蔵田道子 田口 馨	9.6km	○蔵田道子 今井伸二	9.7km	○蔵田道子 坂本 徹	4.7km	○森 正昭 蔵田道子

○は班長、各班に記録係と写真係を決めた。

6. 歩行の詳細

(1) はじめに

【坂本 徹】

北海道ブロック歩行については、2020年6月に第1回を実施して、以後初秋の9月と梅雨のない初夏の6月に年2回実施していく計画であった。しかし、コロナ禍により延期続きとなったが、コロナ感染第5波が東京オリンピック終了後に減少傾向に転じたこと、歩行実施時期には北海道の緊急事態宣言解除の要件クリアが見込まれたこと、参加者全員がコロナワクチン2回接種済となったことなどから、海岸線を歩く会の事務局会議に協議して実施可として了承された。

一方で、コロナ感染リスクはゼロでないため、宿泊ホテル・旅館は一人一室などコロナ対策に万全を期して実施した。結果として、ホテル・旅館は通常料金でランクの高い部屋を提供されたり、夕食会場は個室となったり、条件の良いサービスを受けた。

参加者は、ワングルOBで山陰ブロックフィナーレ歩行にて一緒した森正昭さんと木賊小舎に宿泊したOBスキー大会にて一緒した蔵田道子さん、私が事務局長を務める「中学担任先生と山を楽しむ会」の会長で恩師の鈴木孝雄さん、同会会員で中学同級生の今井伸二さんと田口馨さん、大学1期先輩の味沢俊治さんの7人となり、3班編成で計画どおり函館駅から乙部町役場まで総距離176kmの歩行が完歩できた。

参加者はお互い交流を深めながら、健康で歩ける幸せを感じながら歩いた。また、北海道の絶景や名所旧跡などに出会え、現地の人々と交流し、北海道の歴史を垣間見て、新たな発見ができた。私は、1993年～1998年の5年間札幌市に居住して限なく道内を巡ったが、今回の海岸線歩行によりこれまで知らなかった北海道をたくさん発見できた。

【森 正昭】

「日本の海岸線を歩く旅」は、「日本再発見の旅」「人との出会いの旅」と思っている。いつもなら、出発前からワクワクするものが湧いてくるのだが、今回はコロナ蔓延のおり、ひっそり歩いて来ようと決めて



函館湾に面した北海道第一歩の地碑にて

いた。

今回の旅は、リーダーの坂本さんの綿密な計画から、現地での歩行ルート of 配布、宿も一人部屋など配慮のお蔭で、楽しみながらの歩行ができたことを感謝したい。

また、初めてお会いした鈴木さん、味沢さん、今井さん、田口さんたちがこの歩く旅に賛同し参加していただいたことで、違った海岸線を歩く旅の展開が期待される。

(2) 1日目(9月13日) 午前：東京から函館に移動、午後：函館市内散策(歩行番外編)

参加者6人は、羽田空港(ANA553便)9時55分発→函館空港11時15分着の飛行機で移動(今井伸二さんはJR新幹線で移動)。函館空港からバスにて函館駅に到着して、駅前のコンフォートホテル函館に荷物を預けて、函館市内散策に出発する。まずは昼食とし、函館朝市の「きくよ食堂本店」で人気N01の海鮮丼を食べる。



函館山からの展望



函館市内散策のルート(歩行距離3.9km)

函館駅前から函館市電に乗り、十字街で降りて、「函館・元町の教会と洋館の歴史散策」を行った。東本願寺函館別院、カトリック元町教会、函館ハリストス正教会、旧函館区公会堂、旧イギリス領事館、北海道第一歩の地碑、金森赤レンガ倉庫群に立ち寄った。赤レンガ倉庫群にて自由行動として、17時30分夕食・交流前夜祭の会場「函館ダイニング雅家」に集合とした。市内散策の歩行距離は3.9kmだった。

新幹線で函館入りした今井伸二さんは、夕食・交流前夜祭から合流となった。交流前夜祭では、自己紹介を年長者の森さんから歳の順で行ったが、初日から打ち解けて互いに親しくなった。(坂本徹 記)

リーダーの坂本さんのプランに従い、午後から函館の街の散歩に出かけた。函館山の麓では幕府が函館を開港して以来、国際都市として発展してきた歴史を学ぶことができた。

開港とともに作られた、カトリック元町教会やハリストス正教会、かつてのイギリス領事館、ロシア領事館などが並び、異国情緒たっぷりの家並みである。そんな中に浄土真宗東本願寺派の黒い大屋根が光っているのが、和洋混合でいかにも北海道らしく面白い。

石畳の広い坂道を上り詰めると、黄色の壁が目立つ旧函館区公会堂だ。この建物は明治40年の函館の大火で焼失した町会所の代わりとして、市民の浄財で建設されたとのこと。その後、病院や役所などの施設となり外装が変わっていったが、当時の図面をもとに黄色と青灰色の壁に復元されたそうだ。2階のホールにいたボランティアの女性たちがその辺の経緯を説明してくれた。ロビーに立つと、函館市街と港、遠くに大沼



交流前夜祭を終えて雅家の前にて

駒ヶ岳が眺められ、何か儲かった気分になった。ここではコロナを気にするような混雑が全くなく、落ち着いた観光ができたことが良かった。
(森正昭 記)



旧函館区公会堂の2階ホールの外にて



函館山にて

(3) 2日目(9月14日) 函館駅ー52.5 km→知内町役場 : 天気 晴れ

8時00分に函館駅前のオリックスレンタカー店に集合。計画では、昨夜函館山ロープウェイで函館山に登って夜景を見ることになっていたが、ロープウェイは緊急事態宣言中により休業であった。このため9月14日朝、歩行スタート前にレンタカーで函館山頂上まで登った。函館市街地と周辺の海や山が一望できる展望台(北海道駒ヶ岳まで見えた)で、日本を代表する夜景スポットの朝景を満喫した。

9時10分に函館駅前に戻り、北海道歩行のスタート地点となる函館駅を背景にして集合写真を撮る。



【1班： 函館駅ー25.5 km→トラピスト修道院】メンバー：坂本徹、鈴木孝雄、今井伸二

いよいよスタート、どんな旅になるのだろうか。函館駅を9時30分出発し、道路をひたすら歩く。青函フェリーターミナル、ふ頭、工場群を見ながら舗装道路を進む。土の山道に比べ固く、足裏や膝に響く。今朝、レンタカーで登り、市街地と函館湾を見下ろした函館山が次第に遠くなるのが励みだ。函館山を背にして七重浜に沿って国道を進む。先頭でリードする坂本君のピッチは速い、間が広がらないようがんばろう。時々休憩をとってくれ、水分補給できるのがありがたい。車がかなりのスピードで行き交うが、我等は遅い。



洞爺丸慰霊碑にて



函館山に向けて海上に延びる栈橋

11 時 15 分、洞爺丸慰霊碑に立ち寄る。昭和 29 年 9 月の台風 15 号で、洞爺丸など 5 隻の青函連絡船が七重浜沖で遭難。死者・行方不明者は 1430 名という未曾有の海難事故だった。慰霊碑に参拝して黙祷した。

12 時 10 分、函館山が見える七重浜の砂浜で昼食タイムとする。カモメが数多く休息していた。

国道を進んでいくと、函館山に向けて海上に延びる
栈橋とベルトコンベアが見えてきた。太平洋セメント
上磯工場の海上に延びる 2km の栈橋と 300 年分の鉱量
を有する峯朗鉱山へ延びる 6.2km のベルトコンベアだ
った。

日本で最も古い男子修道院であるトラピスト修道院
に向かう道に入った。まっすぐな道をポプラの木が整
然と並ぶ光景は圧巻だった。

15 時 35 分、やっとゴールに到着。修道院の建物は歴
史あるゴシック建築で見ごたえがあった。トラピスト
修道院への坂道はつらかったが、トラピスト特製ソフ
トクリームは疲れを癒してくれた。レンタカーを回収
して、道の駅きこないに向かう。（鈴木孝雄 記）



修道院に向かうポプラの並木道

【2 班：トラピスト修道院→16.8 km→道の駅みそぎの郷きこない】メンバー：森正昭、味沢俊治



修道院の鉄の扉の前にて

トラピスト修道院は、海沿いの国道 228 号線から山に向かい
まっすぐな上り坂の先にある。鉄の扉の先は、修道僧たちが祈
りと作業を行う別世界である。ここに来たからには、売店でソ
フトクリームを味あわねばならない。車を駐車場に止めおき、
1 班の回収に託す。

穏やかな海を眺めながら国道 228 号線を歩く。単線の「道南い
さりび鉄道」が並行して走っており、青函トンネルを通過して
きた北海道新幹線は木古内駅で地上に出て、またすぐトンネルに
入るため姿を見ることはできない。

今日の同行者は味沢さん、都立大学人文の出身、坂本さんの

1 期上、高校の教員をずっとやってきたとのこと。リタイア後、坂本さんと山歩きを始めたそうだ。坊主頭

11 時 52 分、トラピスト修道院を出発。ゴールまで 17 km を 5 時間か
けて歩く。

修道院の並木道から国道に戻るのを避け、段丘上を走る見通しの良
い脇道に入る。人にも車にもあわず、海からの風が心地よいなか、サ
ッポロビール「グランポレール北海道北斗ヴィンヤード」の看板、ブ
ドウ農場。踏切をわたり国道に戻ると、ここからはひたすら海沿いを
目的地に向かう。

12 時 58 分、「御宮野」の名もなき神社でようやく日陰を見つけ昼
食。国道は道南いさりび鉄道と併行。

釜谷駅を過ぎ、14 時 5 分サラキ岬到着。太平洋横断の咸臨丸は新政府
に引き渡されたのち、この沖で座礁・沈没したと、記念碑にある。碑
にはそのとき救い出された 400 名の乗船者の名前が刻まれる。この岬
から先は、箱館山も見えなくなる。

14 時 44 分、泉沢駅で一休み。小さな漁港がある集落をいくつか通過
するも、店もなく郵便局があるだけ。橋の上から 40 cm 大の鮭が泳い
でいるのを発見。16 時 36 分、ゴールに到着。（味沢俊治 記）



ソフトクリームを味わう

は雲水のような風貌、穏やかな話しぶりも似つかわしい。

天気も良く対岸の眺めも良いが、下北半島の入り組んだ海岸線は、頭に描く地図との関係がよく分からない。「サラキ岬」で、「咸臨丸座礁の地」の看板を見つけた。咸臨丸というと、1860 年日米通商条約を結ぶために、軍艦奉行・木村摂津守、艦長・勝麟太郎が乗り込み、サンフランシスコへ渡ったことまでは誰もが知っている。しかし、戊辰戦争後、政府の輸送船として北海道と東北地方を往復、1871 年（明治 4 年）仙台藩家臣団を載せて塩釜から函館経由で小樽に向かう途中、ここ「サラキ岬」で座礁、沈没したことを初めて知った。



「咸臨丸座礁の地」の看板にて



「かめかわばし」の上から海に流れ込む川面をみると、70 cmほどの大きな魚がいるではないか！まぎれもない鮭だった。近くにいた同年配の男から、「この辺ではタモでとっているよ」との返事。「えっ、そんなのありか！？」

道の駅に到着、いつもの場所にマメができていた。

この日の宿泊は、山深い知内温泉。旧館はお化けが出そうな古ぼけた部屋で、蛍光灯のスイッチを探すのに苦労したが、3 カ所ある温泉は別々の源泉から引かれており一流だった。ビジネスプラン・2 食付きで 6900 円、お勧めである。（森正昭 記）

【3 班：道の駅みそぎの郷きこない—9.9 km—知内公園】メンバー：蔵田道子、田口馨

11 時 10 分出発、計画の終点の場所から逆コースで歩くことになったが、知内公園の場所がわからず、知内町役場で降ろしてもらい、歩き始める。じきに私の足が痛くなり、田口さんがガソリンスタンドの店舗で、座って靴を脱いで点検できるようにお店の人に頼んでくれる。特に靴擦れができそうな感じでもなく痛みも治まったので、そのまま歩き続けられたが、お店の人がバンドエイドまで出してくださったのには、恐縮の思いと田口さんの積極性に脱帽。

12 時 30 分、昼食は森越の神社の縁側の日陰で風が気持ちよい所で取る。田口さんが海の方へ降りて行って、なかなか戻って来ない。砂浜を歩いてきたという。それで私も、一緒に砂浜に降りて波打ち際を歩いた。砂浜は歩きにくいのだが、馬で海岸を走る時、波打ち際の湿った所を走ると馬の負担が軽く済むことを思い出し、波に濡れないよう注意して歩く。車の行き来する歩道とまた趣が違って楽しかった。

最後の方では、いつどこでトイレに行けるかが歩いている時の関心事だった。道路上の距離の表示を見て、ゴールの道の駅みそぎの郷きこないまで行ってからでいいかということになったが、ちょっと手前の公園に綺麗なトイレがあったのでそこを利用。手を乾かす温風機（ハンドドライヤー）が使用できてコロナへの対応の違いを感じた。15 時 30 分、道の駅に到着。（蔵田道子 記）



森越の神社にて



16 時 55 分、全員合流して、レンタカーで道の駅みそぎの郷きこない出発、17 時 25 分知内温泉旅館に到着。知内温泉旅館は、開湯約 800 年、北海道最古の温泉旅館である。温泉入浴して夕食・交流会。明日の歩行に向けたミーティング実施後に、テーマ「私の健康法」として交流会を行い、お互いの健康法を披露して懇親を深めた。

木古内町公式キャラクターのキーコと集合写真

(4) 3日目(9月15日) 知内町役場→46.0km→道の駅北前船松前：天気 晴れのち曇り一時雨

出発前に旅館の支配人に知内温泉の源泉を案内してもらって、8時10分出発。途中コンビニに立ち寄り、昼食を調達、そのあと知内町出身の演歌歌手北島三郎の実家を車窓から見て、8時50分知内町役場に到着。

【1班： 知内町役場→25.1km→横綱の里ふくしま】

メンバー：坂本徹、鈴木孝雄、味沢俊治

知内町役場の町民センターに北島三郎ギャラリーがあるので見学しようとしたが、コロナ感染拡大防止のため休館中であった。歩行コースは、知内町から福島町まで海岸線沿いに歩行できる道が繋がっていないため内陸の国道228号線に沿って歩く計画である。

9時00分、知内役場を出発、昨日と同じロングルート。今日もがんばろう。

知内川の左岸に農道があるため、国道の知内橋を渡らずに左岸の道を進む。収穫期を迎えた水田地帯を進む。タイミングよく新幹線通過を見て北海道新幹線の線路をくぐり、11時00分湯の里の集落の馬形神社にて休憩をとる。神社の奥には紀元2600年記念として、自作農創設記念碑が建てられていた。

坦々と、しかし、必死に歩く。高山と違い、道端の花も少ない。葛の青紫、ニラの花に似た白い花、たまに珍しくフウロ草、あまり疲れもとれない。

12時10分、福島町に入り、千軒で昼食。

13時05分、登山者休憩所にて休憩。歩くのが辛くなってきたが、数年前、大千軒岳に登った際、お世話になった登山者休憩所(千軒コース登山口近くにある避難小屋)によってくれたので、最後までがんばれたのだろう。小さな集落の中の小さな小屋に心からお礼を捧げた。

13時55分、歩道の狭い福島トンネルを出て旧道入口で休憩。

15時05分、青函トンネル記念館到着。休館でないため見学したあと、相撲記念館に移動・見学した。ようやくピックアップ地の横綱の里ふくしまに着いた。本当にお疲れ様でした。

(鈴木孝雄 記)



知内温泉旅館前にて



登山者休憩所にて

【2班： 横綱の里ふくしま→11.3km→松前矢越道立自然公園：白神岬駐車場】メンバー：森正昭、田口馨

2班と3班で横綱の里ふくしまで横綱記念館と青函トンネル記念館を見学する。

10時50分出発、11時25分白符橋に到着。途中、草刈とお守り地蔵の屋根をペンキ塗りしてるKさんに会う。青函トンネル記念館を見学した当日に、青函トンネル工事で20年近く働いていた方に、直接話を聞けるとはなんという幸せ。笑顔の素敵な方だった。

若い自衛官からもお話を聞くことができた。昆布やイカを回転乾燥させる現場など楽しみながら進む。

12時00分、海を見ながらの昼食。

12時50分、吉岡漁港イカ釣船を見る。

伊能忠敬北海道測量開始記念公園を過ぎ、福島町松浦に入る。



イカ釣船にて

14 時 15 分、白神トンネル。14 時 22 分、赤石トンネル。
立岩トンネルを抜け、福島町松前から松前町となる。
14 時 47 分、北海道最南端白神岬に到着。（田口馨 記）

「青函トンネル記念館」を見学の後、2 番手（2 班）で
「横綱の里ふくしま」（相撲記念館）を今日の連れ・田
口馨さんと出発。相撲記念館では、ここ福島町が突っ張
りで活躍した千代の山の出身地であったこと、千代の富
士も同郷で師弟関係にあったことを知った。町の目玉の
一つになっている。

宮歌、吉岡、吉野という集落を抜けていった。この辺一
帯の人々は何を生業にしているのであろう？空き家や
廃墟も目立つ。

地蔵堂のペンキ塗りをしていた年配の男性に声をかける。K さん、84 歳。鉄道建設公団に就職、青函トン
ネルの工事に初めから参加し完成後、北斗函館駅発の開通一番列車に乗って東京まで行ってきたと誇らし
そうに話してくれた。今では地元の仲間から、「年金がもらえていいね」とうらやましがられているそうだ。
若いころは、漁師だった仲間のほうがずっと収入が多かったらしい。

田口馨さんは、リーダーの坂本さんや今井さんと保育園時代からの幼馴染、小学校、中学校とずっと一緒
に過ごしてきたという。今回は中学時代の鈴木先生も一緒なので、参加する気になったそうだ。農家をしな
がら福祉関係の仕事をしているが、運動は全くしていないとのこと。そうは言うものの、足が痛くなるとか
まめができるなどなさそうだ。八十路を迎える身にとっては、「元気はつらつでほがらか」が羨ましい。

今日の目的地、白神崎へ 14 : 50 着、11.3km を 4 時間で歩いた。

この日の泊りは、松前町の矢野旅館、嬉しいことに温泉だ。広々した部屋に 1 人、これもコロナのお蔭の
ようだ。（森正昭 記）



相撲記念館にて

【3 班：松前矢越道立自然公園白神岬駐車場→9.6 km→道の駅北前船松前】メンバー：蔵田道子、今井伸二

11 時 10 分、出発。白神岬より歩く。北海道最南端の地、海からの風が強い。すぐ先、右手に赤白ゼブラ模
様の灯台あり。西に向かう。

11 時 45 分、白神岬展望広場下の岩場で早めの昼食。
波は穏やか、海を見ながら気持ちのいい食事。12 時
15 分出発。14 時 00 分、及部川に到着。

本日の歩行距離は約 10km なので、急ぐ事なく、海を
見て、空を仰いで、時には鮭の遡上を気にしつつ、ま
た、取り留めない話を続けながらふと気づくと、右手
高台に松前城。

程なくゴールの道の駅（北前船松前）に 14 時 41 分
到着。今井の歩数計で約 1 万 5 千歩。

他班との合流までの時間、松前城散策。人気の消え
た城周辺はイチョウ、桜などの木々が満載、心に残る
場所であった。（今井伸二 記）



北海道唯一の城である松前城

16 時 20 分、横綱の里ふくしまで 2 班は 1 班をピックアップして出発。

16 時 35 分、白神岬に立ち寄り、集合写真を撮る。

16 時 50 分、道の駅北前船松前に到着。海岸線を背景に集合写真を撮る。

17 時 10 分、温泉旅館矢野に到着。



白神岬にて



道の駅北前船松前にて

温泉入浴して夕食・交流会。明日の歩行に向けたミーティング実施後に、テーマ「思い出の山行」として交流会を行い、お互い登山情報を披露して懇親を深めた。

(5) 4日目(9月16日) 道の駅北前船松前ー52.9km→道の駅上ノ国もんじゅ：天気 晴れ

歩行出発前に、8時00分旅館発で、全員で松前城、松前公園、松前藩屋敷を散策した。松前城はコロナ禍のため休館で入場できなかったが、松前藩屋敷(武家屋敷内部を見れないため無料)は入場できた。旅館前のコンビニで昼食を調達して、9時30分に旅館に戻る。



温泉旅館矢野にて



武家屋敷にて

【1班：道の駅北前船松前ー25.1km→道の駅上ノ国もんじゅ】メンバー：鈴木孝雄、今井伸二、味沢俊治
9時37分、温泉旅館矢野を出発。道の駅北前船松前の前を通過して、旧道、海岸線を意識して進む。松前廃駅、唐津、博多という地名あり。

10時17分、松前港からはバイパス道(国道228)へ。圧倒的な海。風力発電機群あり。歩く先々には風車多数。単調な海岸線、幾つもの漁港を辿る。

館浜漁港(11時10分)、札前漁港(11時50分)を通過し赤神にて昼食。静浦(12時30分)、茂草(13時00分)、清部(13時40分)を通過して、ひたすら歩く。

14時00分、清部大橋超える。今井、水が無く自販機を探すが無い。なにより家が無い。大鴨津川を超える手前に大きな学校あり。大島中学校とあったが、すでに廃校。この先、14時14分に旧道に入る。江良港方面へ。小さな商店あり、飲み物購入。地元の人と会話。我々と同年代の人たちは皆、大島中学出身。学校は町に統一されたとのこと。元気のいい人々。我々初老集団、ここでちょっと元気に。

残り5km位。この先はきれいな海岸(海苔島付近 15時00分)、長い上り坂、高所の橋梁(奥末橋 15時43分)、気付くと原口集落への旧道入口。

海岸へ下り坂を降り、迷いつつ目的の場所、原口漁港前に16時05分到着。

歩行時間6時間30分。今日一日で4.5万歩から5万歩を全員が歩いた。実際の距離は如何に。

(今井伸二 記)



松前廃駅にて



風力発電機群を進む

【2班：原口漁協→17.2km→パーキング台の展望】メンバー：森正昭、田口馨

10時15分、原口漁協出発。左に海、右に様々なきれいな植物を見ながら進む。

11時7分、上ノ国町小砂子願掛橋を渡る。追分ソーランラインを歩く。

11時40分、北海道和人文化発祥の地に到着。

12時15分、昼食とする。クルミの実が落ちていて数個拾う。野外での昼食は格別だ！きれいな紫のトリカブトの花が咲いていた。

13時13分、トッペ沢橋を渡り、数種類の風力発電の風車を見ながら歩く。風車が近くなるとモーターの音が聞こえてくる。現地の方に声をかけ、鮭の話のいろいろと聞いたが、既に鮭が狙上しているとのこと。

13時30分、矢立橋到着。大滝橋、曲り橋を渡る。トンネル内では森さんがヘッドランプ、手にペンライトを車道側に持ち、前後から来る車に分かるように歩く。遠くから車のエンジン音が大きく響き、怖いくらいであった。歌を歌い、2部合唱をしながら美声？をトンネル内に響かせた。

15時30分、パーキング展望台に到着。展望台に上り、ぐるっと見渡すなか、風が心地良くとても爽やかであった。降りて童心にかえりブランコで遊んだ。森さん運転で、1班のお迎えに出発。（田口馨 記）



原口漁協の案内板前にて

全員で松前城などの観光後、3班に分かれ歩行開始。26kmを歩く鈴木さんは、R大学山岳部出身73歳、3日間連続で長い区間を歩き、疲れ知らずの人である。

この日も私は2番手（2班）で、17.2kmを田口馨さんと歩くこととなった。

原口漁港を10:15発、人家が全くない山裾の道を歩く。巨大な発電用の風車がゆるゆると回っている。プロペラの長さの違い、風向きに応じて変わるタイプなどいろいろ見られた。後で、坂本さんに聞くと「1機3億円程度かかります」とのこと。

田口さんは、娘に背を押されての参加だそうだが、このような旅は全く初めてという。山間の深い谷にかかる橋梁の名前、トンネルの名称、トリカブトやキリンソウなどの花を好奇心いっぱい撮影している。運動を全くしていないと言いながら、疲れた様子も全く見せない。女性なりの配慮で毎日お召替えするのが気になったが、「洗濯物はお土産とともに宅急便で家に送った」とのこと。”山屋さん”とは感覚が違った。

今回のルートで唯一の集落、石崎で大工を引退したというAさんと話す。「この時期、川に遡上してくる鮭を港の入り口で釣っているから見てきなよ」と盛んに進められた。清流を登ってくる鮭を見たいと思ったが、遠回りになるのでやめた。

地図で橋の場所を照らし合わせていると、田口さんが「地図って川と山の関係が分かり面白い！」と率直に喜んでた。

車が止められていた「パーキング台の展望」に15時35分到着。行動時間5時間20分。

今晚の泊は「ホテル寺子屋」、高齢者ということでバリアフリールームを充ててくれた。ツインで広々とした清潔な部屋に満足。これもリーダーのお蔭か！
(森正昭 記)

【3班：パーキング台の展望→9.7km→道の駅上ノ国もんじゅ】メンバー：蔵田道子、坂本徹

10時15分、2班を原口漁港で降ろした。出発を見送って、スタート地点の国道沿いにあるパーキング台の展望に到着。歩行距離は9.7kmで余裕があるため、レンタカーで海岸線の汐吹市街の道路を下見したり、パーキング台の展望をのんびりと楽しんだりする。

11時45分、出発。すぐ先の国道から海岸線の道路に降りて、人家のある旧道を進む。

12時05分、海岸の砂浜に降りて昼食をとる。

中心街を過ぎると滝沢小学校の校舎があり、「140年の歴史に幕を閉じます～ありがとう滝沢小学校 閉校 令和4年3月31日」の大きな看板が掲げられていた。北海道開拓と衰退の歴史を感じさせられた。



パーキング台の展望にて



避難路（階段を登って国道へ）

更に進むと、海岸線沿いの道路が工事のため通行止、津波時の避難階段を上って国道に出た。海岸線に沿った国道を進み、大崎で海岸沿いの集落に入る道路を進む。移動販売車の周りに、3人の老婆がいたので話しかけた。「80歳の私たちにとって、1日おきに来る移動販売は欠かせない存在」とのこと。また、ポニー2頭が飼われていたので近づいて触れ合った。

16時00分、道の駅上ノ国もんじゅに到着。「龍灯伝説 神の道」の案内板があるので海岸を見渡してみた。明日、歩行出発前に全員で見学してみたい場所だ。（坂本徹 記）

16時15分、2班は1班をピックアップして原口漁協を出発

16時50分、道の駅上ノ国もんじゅを出発

17時10分、ホテル寺子屋に到着

夕食・交流会の会場は、ホテルから徒歩15分の新地町にある「大衆居酒屋 江差会館」、ホテル寺子屋推薦の居酒屋（美味しくてボリュームがあり安価なお店）であり、事前に電話でお薦め料理を注文しておいた。

江差会館に着くと、活イカの刺身、ウニ玉など新鮮な海の幸料理が待っていた。交流会のテーマは、コロナ禍で北海道第1回歩行が実現できたことから、「コロナ禍における新たな取り組みと新しい発見」とした。計画どおり明日完歩できる喜びを感じながら、お互い



道の駅上ノ国もんじゅ

率直に現状を出しあった。五臓六腑に染み渡るお酒と海の幸を堪能しながら、楽しい時間を過ごした。

(6) 5日目(9月17日) 道の駅上ノ国もんじゅー25.3km→乙部町役場：天気 晴れのち曇り

スタート地点の道の駅上ノ国もんじゅに行く前に、味沢さん早朝散歩で発見された丘の上にある新市街のビューポイントに車で行く。江差警察署や江差町公民館などがあり、江差の町と海岸が見渡せた。

8時25分、道の駅に到着。駐車場から5分程下った海岸で「龍灯伝説 神の道」を見学した。



ホテル寺子屋にて



龍灯伝説 神の道にて

【1班：道の駅上ノ国もんじゅー10.9km→えさし海の駅】メンバー：鈴木孝雄、味沢俊治

8時45分、出発。最終日、味沢さんと二人、これまでの半分の距離、気が楽だ。

9時5分、旧笹浪家住宅、ニシン漁の網元、北海道の現存民家で最古の木造建築物である。

9時40分、上ノ国役場。味沢さんは、歴史に詳しく、話は私には知らないことだらけで興味深い。途中、観光客は絶対来ないであろう、城(館)跡なども案内してもらい、徒歩旅行の良さを実感した。私は、仕事上悩んだことを吐露し、トラウマが薄らいだ。

11時15分、江差駅前、JR江差線(江差木古内間)は平成26年5月廃線。江差駅があったことを偲ぶモニュメントが設置されていた。

11時55分、予想通り、あまり疲れず、開陽丸記念館(えさし海の駅)に着いた。(鈴木孝雄 記)



廃線となった江差駅にて

【2班：えさし海の駅←4.7km→道の駅江差】メンバー：森正昭、蔵田道子

9時45分、道の駅江差を出発。ここは、日本？北海道？で一番小さい道の駅とかで、トイレと駐車場がメインで小さな売店があることはある。

森さんは途中、お寺に寄り道。私はそのまま歩き、港の堤防で釣りをしている人に、何を狙っているのか尋ねると、鮭だとのこと。

10時25分、愛宕町入口辺りの道路の法面が段になっていた。腰かけるのにちょうど良い所を見つけ、休憩する。その後、ちょっと素敵な小さな建物があって、トイレかと思ったらバス停だった。中を覗くと本棚があって本が置いてある。女性がバス待ちで本を読んでいて、森さんがこちらの生活のことなど尋ねた。

森さんはもう一つ出てきたお寺を見に行き、私は道端の観光案内版など読みながら、ゆっくりゴールのえさし海の駅に向かった。

11 時 35 分、えさし海の駅到着。

11 時 45 分、森さんと幕末の軍艦開陽丸の見学に行った。（蔵田道子 記）

江差は港の近くの旧市街と、丘の上の新市街に分かれる。早起きの味沢さんは街を一回りしてきたと、眺めの良い丘の上に案内してくれる。あとは、時間があつたら開陽丸記念館や旧中村住宅見学しましょうということで、歩行開始となる。

今日は、「江差道の駅」から蔵田さんと開陽丸までの 4.7km を歩く。こうして蔵田さんと一緒に歩くのは、ユーラシアを歩く旅で中国の大連近くの東港付近を歩いた時だった。漁業会社の人たちとつたない中国語で話し始めると、社長室でお茶をごちそうになって以来だ。

開陽丸記念館に到着すると今井さんが待っていた。

昨日の歩行でエネルギーを使い果たし、今日は車でサポートに回った。なお、酒の席で今井さんは高校の教員だったと聞いた。山岳部の顧問もやったことがあるとか、さぞ氣を使ったことだろう。

開陽丸は、榎本武揚に率いられて函館にやってきた幕府の軍艦だった。それが松前の攻撃に向かった時、暴風雪に遭い江差で座礁、沈没した。再現された開陽丸は、引き揚げられた大砲や弾丸など様々なものが展示されていた。ここでも函館戦争における土方歳三の奮闘など、歴史を振り返ることができ興味深かった。（森正昭 記）



幕末の軍艦 開陽丸



丘の上の新市街からの展望

【3 班：道の駅江差←9.7 km—乙部町役場】メンバー：坂本徹、田口馨

9 時 35 分、乙部町役場出発。計画の終点の場所から逆コースで歩くことに変更した。

歩き始めてほどなく八幡神社の「生命の泉」があり、水をいただく。美味しい。地元の方もペットボトルを持ち、汲みに来る。

10 時 00 分、地元の方に滝瀬海岸シラフラ展望所の場所を聞き、2～3 分歩いた高台より絶景を見る。



乙部町役場前にて、今回歩行の最終ゴール地点



滝瀬海岸シラフラ

10 時 20 分、江差町五厘沢に入る。10 時 30 分、水堀町に入る。

10 時 33 分、慶喜トンネルに突入。坂本さんが赤い LED が点滅する反射ベストを着る。トンネル内、交互

にこだまを楽しんだり、好きな言葉を発してみる、楽しい！

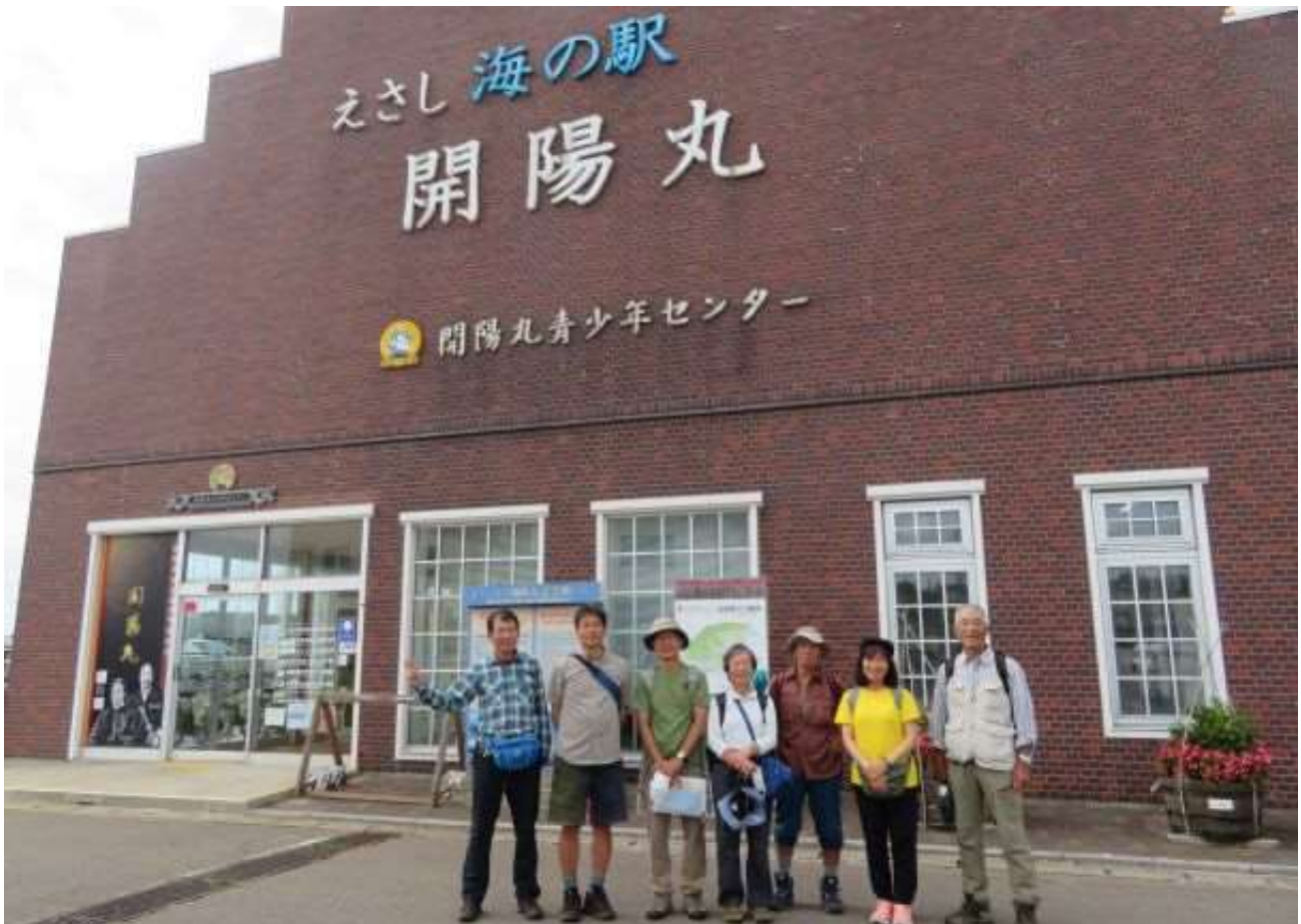
10 時 46 分、函館バスの砂防海岸林停留所があり、名前のとおりだと感心する。街中に入り、道路脇に数本のムクゲが咲いている。国道 229 号と 277 号が重複した道路で、江差水堀駐在所、消防署水堀分遣所、江差水堀郵便局を数分で通過する。

11 時 00 分、鰯川橋に 11 時 00 分、厚沢部川に 11 時 36 分に到着、道の駅江差まで 2 km となる。

11 時 50 分、繁次郎浜を見ながら道の駅まで 1 km となった。

12 時 5 分、道の駅江差に到着、今井さんが待っていた。今井さんの運転でえさし海の駅に移動した。

2 時間半の短い時間だったが、海岸線に眼を向けると奥尻島がはっきりと見え、雄大な北海道を感じながら、穏やかな天候の中歩くことができた。



12 時 40 分、開陽丸入口に全員集合。計画どおり完歩できたため、集合写真を撮る。

12 時 55 分、昼食会場の江差追分会館にある「お食事処えさし」に到着。江差名物にしんそばを食べながら、ミーティングを行う。完歩を祝してビールとお茶で乾杯をし、感想を出し合った。参加者全員、次回の第 2 回歩行も一緒に歩けることを願って帰路につく。

13 時 50 分、江差追分会館出発、国道 226 号線を通って函館空港へ。途中、新函館北斗駅で今井さん（JR 新幹線利用で帰宅）、函館駅で蔵田さん（延泊）を降ろす。

15 時 20 分、函館空港前のオリックスレンタカー店に到着、森さんは延泊のため他のレンタカー店に。鈴木さん、味沢さん、田口さん、坂本の 4 人は、函館空港発 16 時 45 分の飛行機利用で帰宅。

（7）参加者感想

【蔵田 道子】

今回歩行では、短い距離の歩行グループを作ってくださり、やっと参加が叶い良かったです。歩く距離は

短かったですが、要所要所の見学場所を設定してくださり、それも良かったです。コロナ禍で、いろいろ気を使わねばなりませんでした。宿は一人一部屋確保できてラッキーでした。大変お世話になり、有難うございました。

【今井 伸二】

私は途中、足を痛めてしまい、最終日、運転手。残念。

ただ、江差を見学。奥深さは一日位では分からないが、偶然寄った旧関川家別荘は多くの事を教えてくれた。この町がどれほど活気があったのか(鉄道、歌舞伎座、5倍近い人口等)、一端が知れた。今回、訪ねた所に共通した「さびれ感」を我々よそ者が云々言うことではないが、今の生活が現実であり、現在の日本の姿の一端であると理解。5日間ありがとうございました。

【田口 馨】

日本の海岸線を歩く会の北海道第1回歩行実施について、「中学担任先生と山を楽しむ会」で事務局をされているリーダーの坂本さんから声をかけていただきました。

飛行機も久しぶり、初めての北海道、初めての連続長距離歩行など、初めてづくし。迷惑かけるのではと不安がかなりありましたが、坂本さんに相談したところ全く心配ありませんとの返答。山を楽しむ会のメンバーも一緒なこともあり、思い切って参加させていただきました。

初対面の森さん、蔵田さん、味沢さん、皆さんとても素晴らしい方でした。一緒に歩いた森さんには、歩く会の趣旨や活動状況、地域の方々との交流、荷物の準備や靴の選び方まで、丁寧に教えていただきました。蔵田さんも優しく接してくださり、登山のほかにも未知の世界の乗馬やシュノーケリングの話をしていただきました。そして歩行解散後は5泊されるとのこと、ビックリしました。

お宿では、歩行結果報告とともに毎晩テーマを決めてディスカッションがあり、勉強になりました。食事でも美味しく、あっという間の時間でした。

リーダーの坂本さん、チケットや宿の手配から歩行計画の作成まで、ほんとうにお世話になりました。感謝してもしきれません。皆さまに感謝しつつ、またお会いできることを楽しみにしています。

【味沢 俊治】

旅の醍醐味は、名所・旧跡を見る、おいしい食事と酒、温泉を堪能する、といろいろあります。そのどれも満足できる旅でした。しかし、それ以上に楽しかったのは、その土地の空気に身を浸すことのできた旅だったことです。歩くことは、旅をより自由に開放的なものにします。出会った人に話しかけたり、廃校のあとをしみじみ眺めたり、人々の営みに触れることのできた旅でした。

そしてもうひとつ、旅を共にした人たちと、新鮮で深い時間を共有できたことです。共に歩くことが、思いもよらない濃密な時間をつくり出しました。まだ穏やかな津軽海峡と秋の気配をかすかに感じさせる渡島半島からの風を感じながら。ありがとうございました。

レンタカー（ステップワゴン4WD、装備：ETC 禁煙 ナビ ABS）は、474 km走行しました。お世話になりました。

